

学校経営のポイント

## “スクールガード”から“コミュニティガード”へ

若井 彌一

平成 19 年を代表する「今年の漢字」は「偽」と、京都・清水寺貫主が特大和紙に揮毫し(12月12日)、その写真が報道された(12月13日『読売新聞』等)。翌14日、長崎県佐世保市のスポーツクラブで、銃乱射により2人が死亡、6人が重軽傷を負い、容疑者も事件後に別の場所(教会)で自殺するという重大事件が発生した。

### 核心は容疑者自殺により「謎」?

容疑者(37歳・男)が自殺したことにより、犯行の動機が何であったかについて、本人の自白に基づいて特定することは不可能となってしまった。

12月22日付けの『西日本新聞』(電子版)は、「佐世保・銃乱射事件から1週間 動機行動見えぬ心好きな人?に銃口 親友ら多数呼ぶ 最後の場は教会」という、長々とした見出しで、「長崎県佐世保市のスポーツクラブ『ルネサンス佐世保』で8人が殺傷された散弾銃乱射事件から21日で丸1週を迎えた。(中略)県警は、1週間前の事件発生時刻に合わせて21日夜、現場で聞き込みをしたが、動機を中心に事件は依然、謎に包まれたままだ」と報じている。

しかし、謎に包まれたままだとはいえ、報道の解説でも紹介されているように、容疑者の犯行の動機は、殺害されたスポーツクラブのインストラクター(26歳・女)に一方的に好意を抱き、インストラクターに「交際相手がいることに気づいて、横恋慕の揚げ句、道連れに死のうと決意したのではないか」(容疑者を知り、インストラクターとも親しいというスポーツクラブの男性会員の話)と考えるのが、容疑者の犯行数日前の言動、犯行の手順(インストラクターが最初に、かつ執拗に撃たれたことが判明して

いる)を総合すると、説明として説得力がある。今後、さらに詳しいことが明らかになるかもしれない。

### “コミュニティガード”の取組みを

事件発生直後は、無差別乱射ではないかと見られていたこの事件であったが、インストラクターを最初に狙い撃ちし、次に親友(36歳・男)を撃っていることが判明している。

だが、被害者には、この2人だけでなく、スポーツクラブに来ていた子どもらも含まれていることに注目しておかななくてはならない。

現在、文部科学省の「地域ぐるみの学校安全体制事業」の一環として、全国的にスクールガード(学校ボランティア防犯巡視員)の取組みが進められている。県や市町村の教育委員会のなかには、内容の充実したガイドを作成しているところもある(三重県教育委員会「スクールガードの手引き」、浜松市教育委員会「スクールガードの手引き」など)。

文部科学省の委嘱事業として好評を得ているが、このたびのような事件が発生すると、児童・生徒の登下校の安全を確保することに重点が置かれているスクールガードの取組みが、生活の場としてのコミュニティ全体の安全を確保するという発想のもとに進められていくことが必要であることを痛感する。

銃所持の許可のあり方についても、厳格化の方向での検討が必要であるが、それだけでコミュニティでの住民の安全が確保されるわけではない。“スクールガード”から“スクール&コミュニティガード”への方向性をもった活動として各学校や地域での取組みを進めていくことが課題のようである。

(わかい・やいち = 上越教育大学大学院教授・附属図書館長)

本紙は、<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

●好評発売中! ● 杉山正一・杉山愛子【共著】A5判170頁・定価1,890円 教育開発研究所

## 『校長の涙 卒業式における校長の式辞実例』

## 『「学力調査」対応法・活用法』

調査データの読み方/活用/保護者への説明  
高階玲治【編】B5判272頁・定価2,500円